■サンキューセミナー「コンゴ民主共和国のエボラウイルス病とアフリカのUHC」

■2019年10月18日開催（日本リザルツ東京事務所）

■講師　長崎大学熱帯医学研究所教授　山本太郎氏

■講演内容

山本教授は「病原体と感染経路が分かっているのに、感染症は世界でまだ終息していない。その理由は、ヘルスシステムの破綻にあるのではないか」と問題提起。その理由として、①紛争地域には入って行きづらい②政府が本腰を入れていない③正確な診断ができない④住民が疾病について正確な知識を持っていない⑤人と自然宿主である野生動物の接触頻度が上がってきている⑤野生動物との接触がなくても人がリザーバーになっている可能性がある⑥調査や検体の運び出しが名古屋議定書の影響により難しい⑦対症療法が多い⑧ワクチンが高価―といった点をあげた。